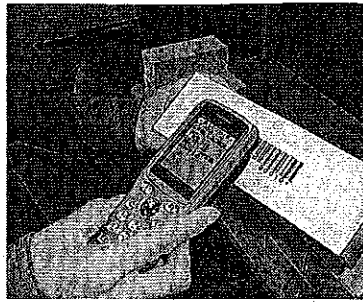


受託ソフトのオフィスエフエイ・コム

物流事業へ本格参入

倉庫管理システム 中小向け販売

受託ソフトの開発・販売を手がけるオフィスエフエイ・コム(栃木県小山市、飯野英城社長)は、物流事業に本格進出する。在庫管理から発送業務まで一貫して請け負う物流センターを東京都大田区に開設したのに続き、独自の倉庫管理ソフトを開発し、四月から貸し出しや販売を始める。同社はこれまで自動車関連の検査システムなどが売り上げの主力だったが、景気悪化で先行きが不透明になっており、物流事業を新たな収益源に育てる。



オフィスエフエイ・コムが開発した倉庫管理システムは、ハンディターミナルを使う

同社が開発を進めていり、「どの場所に収納しるソフトは、倉庫に製品を搬入する際に、過去のデータを参照してより効率的な収納場所を探し出す管理システム。製品を出し入れするたびに、「ハンディターミナル」と呼ばれる端末で製品に付いたバーコードを読み取り

が上がる収納場所を自動的に選択。その製品を搬入する際に、ハンディターミナルで倉庫のスタッフに収納場所を指示する形をとる。

同社は既にこの倉庫管理システムをオーダーメイドにより大手通信会社や機械メーカーに納めている。システム使用後一カ月で在庫スペースを二

割削減し、作業効率を二割アップさせたという。そこで今回、中小企業向けにパッケージソフトとハンディターミナルを貸し出したり、販売したりする。レンタルの場合、倉庫のスタッフ一人当たり月五万円程度で貸し出す方針。二〇〇九年度で売り上げ約二億円を目指す。

同社はこのほか、昨年七月に大田区に延べ床面積約千六百五十平方メートルの物流センターを開業。化粧品や健康食品などについて、受託した企業の在庫管理や発送業務を一貫して請け負う。PLC(サーボ・パーティー・ロジスティクス)を始めて

は物流コストの削減を急いでおり、ニーズは大きいと判断した。〇九年度で一億円の売り上げを目指す。オフィスエフエイ・コムは一九九七年に創業。〇八年六月期の売上高は約八億五千万円。物流事業への本格参入により、売り上げの一層の拡大を目指す。

深刻な景気後退で企業